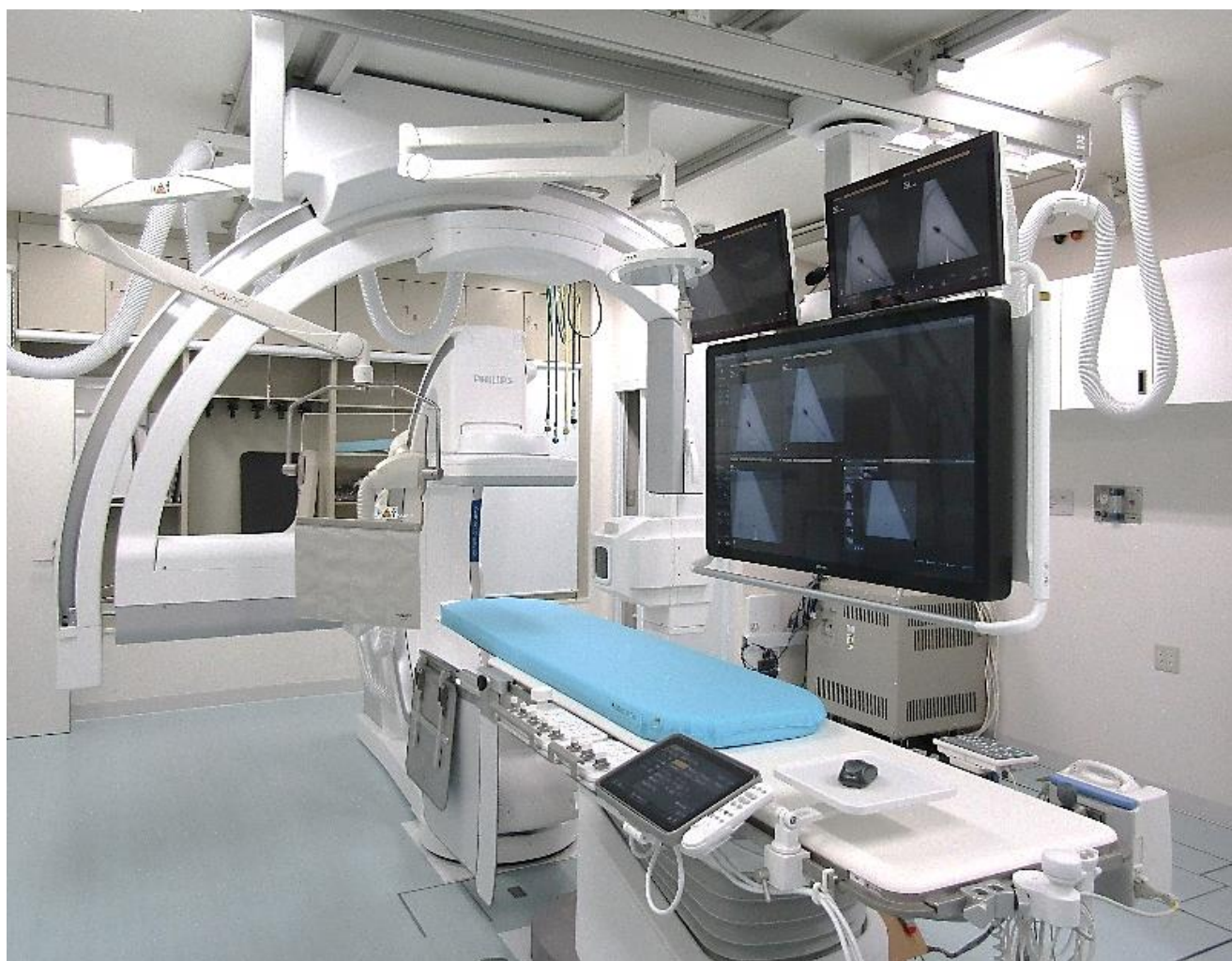


アンギオ装置更新！

4月に血管撮影装置がリニューアルしました。装置性能が向上したことで質の高い治療を効率よくサポートでき、検査時間の短縮、被ばく低減による安全性の向上を可能にしました。脳血管、心臓、腹部そして足先まで全身領域の血管内治療に対応でき、鳥取県中部の中核病院として救急医療やがん治療に貢献します。



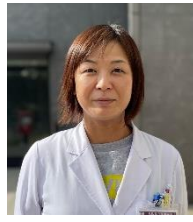
アンギオ装置更新！！	1
HBOC(エイチボック) 乳がん・卵巣がん	2-3
沖縄県に医療支援のため派遣されました	4
マイナンバーカードによる保険証の利用について	4
『病棟薬剤師』が配置されています	5
外来化学療法室の体制が変わりました	6
委員会活動 感謝の気持ちを込めて、メッセージ交換	6
〇〇さんにインタビュー	7
職員の紹介	8
編集後記	8

HBOC (エイチボック)

乳がん・卵巣がん



外科
大田 里香子

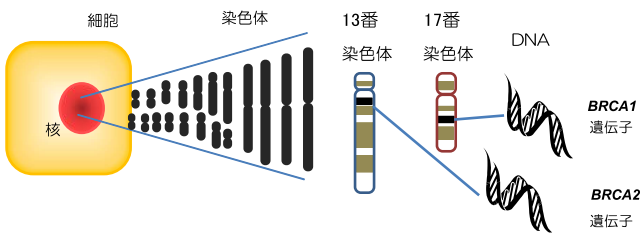


産婦人科
周防 加奈

今回は遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC) について外科と産婦人科の先生にお話を伺います。

Q) HBOC とはどのようなことですか。

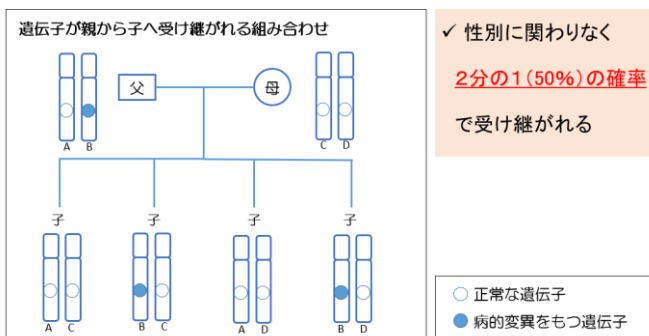
A) HBOC とは生まれつき、BRCA1 または BRCA2 という遺伝子に変異を持っている方のことを言います。



Q) 遺伝子に変異を持っていたらがんになりやすいということですか。

A) BRCA1 遺伝子と BRCA2 遺伝子は、誰もが持っている遺伝子で、細胞をがん化させ

遺伝子バリエーションの受け継がれ方



ないように働いています。この遺伝子の機能が損なわれるような変化がある (病的バリエーション) と乳がんや卵巣がんなどを発症しやすくなることがわかっています。

Q) HBOC の場合、かならず乳がんや卵巣がんになりますか。

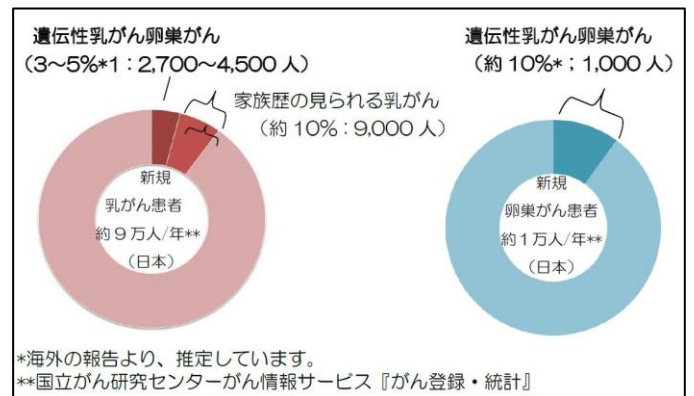
A) いいえ、HBOC であっても全員が乳がんや卵巣がんを発症するわけではなく、一生がんを発症しない方もいます。ただし、HBOC の方で、生涯で乳がんになる可能性は、次の表のように一般の方に比べ、乳がんが 10~40 倍、卵巣がんが 8~60 倍、高くなることがわかっています。

	日本人一般	BRCA1 病的バリエーション	BRCA2 病的バリエーション
乳がん(女性)	生涯で10.2% ※1	72% ※3	69% ※3
卵巣がん	生涯で1.3% ※1	44% ※3	17% ※3
乳がん(男性)	70歳までに0.1% ※2	1.2% ※2	7~8% ※2

※1 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」2015年データより
※2 Liede A et al. J Clin Oncol 2004; 22(4):735-742
※3 Kuchebeacker K, et al. JAMA2017; 317:2402-2416

Q) HBOC 乳がん・卵巣がんの方はどれくらいおられるのですか？

A) 日本で1年間に乳がんは約 95,000 人、卵巣がんは約 13,000 人が新たにがんとして診断されており、そのうち乳がんが 3~5%、卵巣がんが約 10% の方が HBOC に関係していると言われています。



Q)自分が HBOC でないか心配になります。

A)比較的若い年齢(40歳未満)で乳がんを発症している方、血縁者に乳がんが多い、あるいは卵巣がんになった人がいる方、家族や親戚で HBOC と言われた人がいる方には、HBOC の検査をお勧めしています。すべての方が保険診療で検査できるわけではなく、現在のところはがんと診断された方のみとなっており、他の方は保険適用外の診療となります。(厚生病院では保険適用外の診療を行っておりません。)

Q)検査はどのようにするのですか。

A)血液検査で行います。結果説明にあわせて、再度遺伝カウンセリングを行い、定期健診などの経過観察をします。希望があれば、予防的手術をします。

Q)もし、HBOC と診断されたらどうすればよいですか。

A)まだがんを発症されていない方について、勧められている検査や、予防があります。ただ、がんを発症していない方の検査、予防については全額自費となります。

【検査】

乳がん : 視触診、MRI、マンモグラフィ
子宮がん : 経腔超音波検査、腫瘍マーカー

【予防(手術)】

乳がん : リスク低減乳房切除術
子宮がん : リスク低減卵管卵巣摘出術

Q)がんを発症されている方はどうですか。

A) HBOC 乳がん・卵巣がんの方の治療には、PARP 阻害薬という薬剤がとても効果的です。

Q)遺伝性乳がん・卵巣がんを考えるとがなぜ大切なのでしょうか。

A)遺伝性の乳がん・卵巣がんは全体の中では少数ですが、ある患者さんの乳がん・卵巣がんが遺伝性であると診断されるとその血縁者の方々にもがんを発症しやすい体質が遺伝している可能性がわかります。その方々が適切ながん検診をうけることで、乳がん・卵巣がんの早期発見、早期治療につながります。

Q)遺伝の検査ということで不安があります。

A)確かに、HBOC の診療では難しい側面もあります。『我々医療者は、卵巣がんは予防できますよ。血液検査を受けるだけです。ご家族にも HBOC でなりやすいがんにご気をつけてもらえます。予防的に卵巣や卵管を手術でとることもとても有効です。』とメリットを伝えますが、実際患者さんは、「自分のがんの治療であたまが一杯。もし HBOC とわかったら家族や子供にがん体質が遺伝するなんて話しにくい。よく効く薬があるのはわかるけど、HBOC って診断がつくのも怖い。」といった気持ちの方もおられると思います。また、予防手術を行うかどうか、なかなか気持ちの整理がつかない方もおられます。いくつかの問題もあることを理解して、継続的な機会提案をしていくことを大事にしています。



沖縄県に医療支援のため 派遣されました

尾田 恵

新型コロナウイルス感染者の急増により医療が逼迫している地域から鳥取県へ派遣要請があり、県立病院から看護師1名ずつが派遣されることになりました。今回、令和4年1月24日から2月4日、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターの小児病棟で3日間、外科病棟で7日間、感染症病棟ではなく主に一般病棟で勤務しました。

病棟看護師からの依頼を受けて入浴介助、食事介助、採血、点滴ルート確保、医師によるドレナージ術の介助を行いました。環境整備で病室をラウンドした際に、数日間入浴できていない女性患者を中心に洗髪の提案をして実施しました。洗髪中、「サッパリしたから手術を受ける決心がついた」と笑顔になられる患者、または「なかなか傷が治らなくて心配だ」と涙を流す患者もあり、感情を表す機会も作ることができてよかったと思いました。病棟師長から

「患者さんを大切にしてくれてありがとう」、「患者だけでなくスタッフも癒されました」と感謝の言葉をいただいたことが嬉しかったです。

今後は新型コロナ感染の収束を願うとともに



に、派遣要請があればいつでも、どこでも行けるようにあります。基本的な生活援助、診療の補助はどんな状況でも実践できるよう、経験と学習、ふり返りを継続しておくことの大切さを実感できた経験となりました。

2つ目は、入院などで医療費が高額になった際に、従来であれば患者の皆様やご家族が各保険者に限度額適用認定証を申請していましたが、病院側でご本人の同意を得て認定証に関する情報が確認できるようになったため面倒な手続きがいらなくなりました。

マイナンバーカードでの保険確認は専用のカードリーダーによって行います。カードリーダーは外来棟1階の新患受付・会計窓口付近に合計3台設置しています。会計付近の職員にお気軽にお声がけください。（夜間等は夜間休日救急受付で対応いたします。）

ぜひ、この機会にマイナンバーカードを取得いただきまして、健康保険証としてご利用ください。

マイナンバーカードによる 保険証の利用について

医事課 橋上 巧

当院では、令和3年10月からマイナンバーカードを健康保険証のかわりに利用できるようになりました。

いままでどおり保険証をご提示いただくことも可能ですが、ここではマイナンバーカードを利用するメリットを2点お伝えいたします。

1つ目は、転職・結婚・引越ししても、健康保険証の発行を待たずに、保険者（国保の場合は市町村、社保の場合は協会けんぽなど）での手続きが完了次第、マイナンバーカードを利用できます。

『病棟薬剤師』が配置されています

昨年10月より、入院患者の薬剤管理の目的で病棟に薬剤師を配置しています。今回は病棟薬剤師の取り組みをご紹介します。薬剤師は緑色のネームストラップをつけています。

薬剤師

主な取り組みとしては、常用薬の確認・整理、内服薬準備の確認、医師・看護師からの質問への回答、カンファレンス参加、そして忘れてはならないのが入院されている方への服薬指導です。



病棟にすることで、日々の治療の様子や、他の職種の視点をより身近に感じることができます。

得た情報を活かすことで、服薬指導だけでなく日々の調剤業務も、より充実したものになってきていると実感しております。

一般の方には、『病棟薬剤師』はまだ馴染みがないのかもしれませんが。服薬指導自体は以前から力を入れており、ベッドサイドまで服薬指導に伺っています。すると、病棟薬剤師ってこんなこともするの？と入院されている方に驚かれることもまだまだあります。

みなさまに「病棟薬剤師にも頼っていいんだ」「相談してよかった」と思ってもらえるよう、調剤室から飛び出し、より身近な存在になれるよう日々努めてまいります。

病棟師長

病棟薬剤師には、入院されている方へ薬剤指導や相談の対応をしてもらっています。例えば薬の副作用についての質問に、専門的な視点でこたえることにより、安心な医療の提供に繋がっていると感じています。患者さんからも「丁寧で分かりやすかった。」とのお言葉をいただくこともありました。

看護師と薬剤師のカンファレンスを実施し、一人ひとりにあった内服管理の方法などを検討しています。また3月には退院後訪問に薬剤師も同行しました。入院中に検討した内服管理の方法で、正しく内服できているか、患者さん

やご家族の困りごとがないかを確認することができました。



病棟に薬剤師がいることで看護師もタイムリーに相談することができ、とて

も心強いです。

今後も病棟で情報共有をしながら、患者さんやご家族に、より良い支援ができるよう、連携して取り組んでいきます。

厚生病院に入院されるみなさんへ

検査・治療のため、当院へ入院する方へお願いです。入院予定の方には、当院から書類をお渡ししますので、かかりつけ薬局へお薬を持っていき、整理後のお薬を入院当日にご持参ください。（ご自身での整理とは別です。）

安心して、検査・治療が行えるようご協力ください。



外来化学療法室の

体制が変わりました

外来化学療法室室長 西江 浩

外来治療室は外来部門から独立し、新たに西江浩室長を中心に「外来化学療法室」としてリニューアル始動することとなりました。

各診療科や中央検査室、中央放射線室などと連携し、患者のみなさんが予約時間に快適な治療を受けて頂けるように体制を整えているところです。新たな取り組みとして、治療前日に来院可能な患者さんへ、治療当日に実施していた採血検査を前日に実施する「前日採血」をご案内しています。それにより、治療当日は来院後すぐに診察、治療という流れとなり、少して

も治療前の待ち時間が短縮できるような対応もさせて頂いております。

がん化学療法看護認定看護師をはじめ、専門的な知識や技術を持つスタッフとともに、安心、安楽な治療を提供していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

お聞きになりたいことがありましたら、お気軽にご相談ください。



委員会活動

当院には、医療安全に関する委員会や感染対策に関する委員会など、法律上、設置することが義務づけられているものも含めて、多くの委員会が設けられています。委員会の多くは、医療の質の向上や、病院サービスの向上、病院運営の効率化などを目的とされており、病院に働く多職種で構成されています。このコーナーでは当院での委員会活動をご紹介します。

感謝の気持ちを込めて、 メッセージ交換

～新人さん・指導者さん～

人材確保プロジェクトチーム 小椋 美保子



4月に入職した皆さんが各部署に馴染んできた頃、人材確保プロジェクトチームでメッセージ交換を企画しました。新人さんは指導者さんへ「〇〇なところが尊敬しています」、「〇〇感謝しています」、指導者さんは新人さんへ「〇

〇なところが成長しました」、「〇〇なところがとてもいい」、それぞれ感謝の気持ちを込めてメッセージを交換し、記念撮影を行いました。



いつもはマスクの下でわかりにくいのですが、皆さんの笑顔がとても自然で、日頃からの良い関係性が伺えました。見ている側もほっこり笑顔になれる素敵な写真ばかりです。

これからも皆で支えあえる職場環境を大切にしていきたいですね。

〇〇さんにインタビュー

みなさん、診察室に医師と看護師以外に、MA（メディカルアシスタント）という職員がいることをご存じですか？誰か居るのは知っているけど、どんなことをしてるの？なぜそこに居るの？と思われている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今回はそんなMAさんにスポットを当てて、インタビューしてみました。



医師（副院長）：吹野俊介さん MA：芦田 美貴さん

聞手：MAさんのお仕事について教えてください。

吹野：一言でいうと、『私の診療を手伝ってくれています。』

聞手：具体的にはどんなことをされているのですか？

吹野：初診患者さんの病歴を電子カルテに入力、再診患者さんの最近の病状を電子カルテに入力、検査の申し込み、検査や再診日の日程調整、診断書の下書きなどをしてあげています。

聞手：医師のパソコン補助ということですか。

吹野：簡単に言えばそうだけど、大切なのは、医師が患者と直接、話をする時間を少しでも多くするために、そのほかのことを補助してもらっているということです。

聞手：なるほど！それは患者さんにとっても、助かることですね。

吹野：もちろん、医師もとても助かっています。居ないと本当に困ります。

芦田：そんなこと言ってもらえるとすごくうれしいです。

聞手：そうですね。でも、医師の補助というのは大変ではないですか？

芦田：はい、専門用語も多く、とても大変です。自分で調べたり、医師に教えてもらったり、日々勉強しないとイケません。

聞手：何か気を付けていることはありますか？

芦田：最終的には医師が確認をしますが、医療のことなので、ミスのないように気を付けています。また、診察室に医師や看護師ではない私たちが居るということで、患者さんに嫌な思いをさせないため目立たないようにしています。

聞手：MAさんのお仕事を知らない方も多いかもかもしれませんね。大切なお仕事だとわかりました。

吹野：そうですね。MAさんたちは、みなさんで情報共有をするノートを作っていて、誰がどこを担当しても同じ仕事ができるように、頑張ってくれているんですよ。私もそれには感心しました。

芦田：はい、そのノートもそうですが、厚生病院では今15人のMAが勤務しており、仕事自体はそれぞれが一人で診察室に入るのですが、仲間たちが居てくれることで、相談したり、違う視点での指摘をしてくれたり、とすごく大切な存在なんです。

聞手：先生、芦田さんとのペアは長いんですか？

吹野：そうですね、もう10年になります。はじめからすんなりいったわけではないけど、今ではやってほしいことが一致して、仕事がスムーズにできるようになって本当に助かっています。

芦田：光栄です。ありがとうございます。

聞手：病院にはいろんな職種の方がはたらいているんですね。今日はありがとうございました。



職員のご紹介

医療局副局長 橋本 好充

医療局副局長を拝命いたしました。微力ではありますが、引き続きより良い医療の提供に努めてまいります。



産婦人科統括部長 周防 加奈

産婦人科統括部長を拝命いたしました。地域の皆さんに安心して治療を受けていただけるよう、努力して参ります。



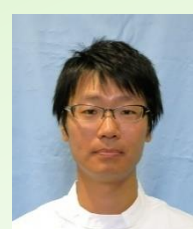
整形外科部長 藤田 章啓

整形外科部長を拝命いたしました。まだまだ実力不足ですが、早く肩書に追いつけるよう、精進いたします。皆様、ご指導のほどよろしくお願いたします。



産婦人科部長 木山 智義

産婦人科部長を拝命いたしました。厚生病院に来て6年半、まだまだ若輩者ですが、地域の女性の為に汗を流していきます。ご指導のほどよろしくお願いたします。



呼吸器内科部長 北谷 新

呼吸器内科部長を拝命いたしました。これからも精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。



小児科
福嶋 健志



小児科
熊崎 健介



小児科
堀江 航



消化器内科
池田 傑



放射線科
鎌田 裕司



麻酔科
足立 雄基



外科
安田 健悟



消化器外科
漆原 正一



消化器外科
高橋 朋大



脳神経内科
本田 誠



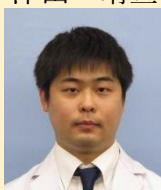
産婦人科
森山 真亜子



内科
森下 紘司



内科
津田 晴宣



研修医
吉田 祐賀子



研修医
石原 正太郎



【編集後記】

新機種血管撮影装置が表紙に載りました。全身の微細血管の立体的な病巣を可視化し血管の中からの治療アプローチに貢献しています。次ページでは遺伝子異常による HBOC がん発症のメカニズムと検査意義を明解に、しかも笑顔で解説いたしました。両者とも今まで見えなかった病気の本態を、鮮明に可視化することが当院でも着実に進んでいます。一方春は多数の新職者、異動者により病院はフレッシュな雰囲気にも包まれています。マスクで顔半分ながら新顔笑顔の面々、全顔可視化が待ち遠しい4月初頭です。
(広報委員長 紙谷秀規副院長)